

見樹院ニュース

O T E R A N E W S
第65号 2015年6月10日発行

浄土宗 見樹院
住職 大河内秀人

〒112-0002
東京都文京区小石川3-4-14
TEL 03(3812)3711
FAX 03(3815)7951
Eメール: kenjuin@nam-mind.jp
<http://www.nam-mind.jp>

施餓鬼会のご案内 見樹会総会のお知らせ

日時：6月28日(日)

- 11時～ 受付
- 11時45分～ 法話とおはなし
- 12時半～ 施餓鬼法要・墓参
- 午後1時半～ 見樹会総会・会食
- 午後2時半 終了予定

◆供養料：お塔婆料 1本3000円
施餓鬼供養料(お布施)

※6月21日までに出席(人数)、塔婆供養のご連絡
を同封のはがきでご返信下さい。

檀信徒が一堂に会し、無縁仏など、ふだん忘れられがちな仏さまも供養し、自分自身の餓鬼(むさぼり)の心をしずめ、長寿と健康を祈る法要です。

今年度は、恒例となった講談は別の機会に譲ることとし、住職・役員と檀信徒の皆様との懇談の時間をもちたいと思います。

新伽藍も5年目となり、新たな縁も広がりながら馴染んできた一方、家族や社会の変化の速さのなかで、葬儀や法要、お墓のあり方、寺と人々との関係の変化を実感する場面も確実に増えています。

しかし、このような時代こそ、人間本来の生き方を見つめ直し、希望ある未来につなげる寺院の役割を果たさなくてはならないと思います。そしてそれは、歴史を担ってきた檀信徒の皆さんの思いに応え、次世代の人々にも受け容れられるものでなくてはならないことは当然です。まずは現状を共有し、ご意見ご要望などを交換したいと思います。

ぜひ若い方もお誘いあわせてご参集下さい。

見樹会費納入のお願い

本来、春にお願いすべきところ、住職多忙のため、お施餓鬼のご案内と一緒にさせていただきましたことお詫び申し上げます。

ご納入は郵便振替を原則としておりますが、今年度に限り、お施餓鬼の折に会費専用受付を設けます。その場合、同封いたしました会費納入袋に、金額とお名前を明記してお渡し下さい。

■見樹会費は、1口3,000円となっておりますが、これまでの口数にこだわらなくて結構です。

会の活動や、見樹院の支援に使用させていただき、見樹院(宗教法人)会計とは別に見樹会(檀信徒)の管理の下、収支を報告させていただきます。

■郵便振替振替口座は、

00150-4-694808

口座名「見樹会」です。

同封の振替用紙をご利用ください。

おぼん だなぎょう お盆のお棚経について

東京では7月13日から15日がお盆期間と言われますが、7月上旬からまわりはじめます。地域によって、あるいは家によって、旧暦の8月にお盆をする方もおられます。新しい方やこれまでうかがっていなかった方もご希望がありましたらご連絡下さい。遠方の方もどうぞ遠慮なく。

新盆の方(新しい仏様のある家)でご親戚が集われる場合は、優先して日程調整・時間調整をさせていただきますのでお早めにご相談ください。飾り方なども、どうぞお気軽にお訊ね下さい。

“志” (体願) を分かち合うサンガとして 見樹院がこれから取り組みたいこと

見樹院は、丹波亀山城主大給松平成重侯を開基として、大給忠昭大分府内城主が延宝3年(1675)に建立して以来340年、伝通院塔頭(たちゅう)の浄土宗寺院として、歴代檀信徒に支えられつつ、祖先の菩提を弔い、仏教の教えを基に願いを引き継ぎ、安寧と平和を願ってきました。そしてこれからも何十年、何百年と、祖先の願い、阿弥陀如来の願いを私たちの願いとして、すべての生きとし生けるものが幸福になる世界をめざしてまいります。そのためには、後から来るもの、未来を生きるものたちに志を引き継ぎ、しっかり希望を託していかななくてはなりません。

寺としてそれを具体的に考えたとき、大きく2つの場面があります。一つは「日常」の活動であり、もう一つは「葬儀」です。

まず日常として、歴史と教訓を裏付ける祖先の願いと未来の希望を結びつける生き方とは何か。それを形にし、文化にし、拠り所となる見樹院のあり方を問い続けています。いま一つの結論は、不当な力に支配されることなく、一人一人が主役となって、対話と共感から築かれる信頼の上に平和な世界めざすという、志を同じくする人々と連携した取り組みです。森と命を守る「天然住宅」や、自然と共生し人間本来の生き方を提案する「ジユレー・ラダック」、その他見樹院を舞台に福祉、環境、人権、地域開発など様々な分野の発信をしている人々との結びつきを強めています。

2つ目の葬儀は、寺の重要な役割の一つです。しかし、多くの人々が葬儀に不安を持っているという問題があります。費用に関する不安です。その不安を逆手にとって、あるいは「わからない」ところにつけこむ

悪質な業者に出会うことも珍しくはありません。急な展開の中で考える間もなく、業者主導で進められてしまいがちです。

そして「お布施」に対するわからなさもあり、寺や僧侶に対する不信も伴います。見樹院では、会費、参加費、塔婆料などは別として、建前ではなく本質的なこととして、お布施は「こころざし」で、請求することはありません。しかしそれがみなさんの「悩み」になり、結果的に「不親切」となることもわからなくはありません。「決めて欲しい」という声も根強くあることも承知しています。しかししかし、お布施の定価化は寺の存在意義にも関わることです。それぞれご家庭やタイミングによって事情が違います。他の寺では戒名のランクによって決めているところもあるようですが、見樹院ではそもそも戒名料というものはありませんし、お布施の金額で決まるものではありません。

当然、総代・世話人さんによる役員会でも課題になる問題ですが、いま、根本的に葬儀のお布施のあり方を変えようという話もでています。すなわち、檀信徒(会員・賛助会員)として、定期的に寺の活動を支えるお布施(会費納入)をしてきている人は、葬儀の時のお布施は「不要」にするという案です。これは、葬儀費用の積立ということではありません。つまり、最初に述べた「志」を共有する方々に関しては、「サンガ」の仲間として見樹院が責任をもって葬儀をおこなうのです。

そしてそれを徹底するために、葬儀社の「仕事」とされている部分も含め、見樹院で全て仕切ることも検討しています。

檀信徒一人一人の“志”を引き継ぎ、しっかり希望を遺すことができる確信を育てていくことにより、生きている今を充実させるお手伝いができればと願っています。

ご案内 戦争ってなんだろう?

親子で聞こう、戦争体験

第1回 石田 雄さんの話を聞こう

いしだ・たけし。大正12年生まれの92歳。東京大学名誉教授。日本政治思想史専攻。昭和18年学徒出陣、殺人を使命とする軍隊という組織の恐ろしさを体験し、再び戦争へ向かわないためにと92歳の今も研究、執筆活動を続けている。

日時:6月27日(土) 午前10時~12時

会場:見樹院

会費:1000円、大学生500円、中高生無料

今から20数年前、紛争地での国際協力NGOのボランティアとして活動していた私が、自分の足元で「市民」として生きることの大切さを学んだ「地域自治を考える文京の会」で、中心となってご指導いただいたのが石田先生でした。

終戦70年。戦争の記憶が薄れつつあるなか、戦争の放棄を謳った憲法が、戦争をするための法律に押しつぶされようとしています。単なる体験ではなく、なぜ戦争が起きたのか、なぜ止められなかったのか、そしてその問いから真の平和と人権を追求されている石田先生から、今また、しっかりと学び、考えたいと思います。

主催:親子で聴こう 戦争体験の会 協力:見樹院